日本原水協FAXニュース

発行:原水爆禁止日本協議会　電話:03-5842-6031
FAX:03-5842-6033　E メール:antiatom55@hotmail.com

2012年
1月30日
No.56

3･1ビキニデー成功へ、学習と行動ひろがる！

2012年3・1ビキニデーまで1カ月となりました。「学んだことを力に、3・1ビキニデーの代表組織に取りくみたい」(北陸原水協学校 in 富山)、「NPT 再検討会議、第1回準備委員会の開催を機にとりくむ国内での原爆展が話題に」(リング・リンク・ゼロ実行委員会) など、学習を力に、代表派遣と行動に全力をあげてとりくむところが生まれています。

●原水協学校に75名！　3･1ビキニデーのとりくみ強化を　－　北陸ブロック

北陸3県は、1月29日、雪降る中で原水協学校を開催。富山（37人）、福井（26人）、石川（12人）から、計75人が参加しました。テーマは、①「福島原発事故と人の生き方」(講師：中島哲演氏・小浜市明通寺住職)、②「核兵器のない世界へ扉をひらこう」(講師：佐竹康行氏・日本原水協事務局次長)。佐竹次長は、3・1ビキニデーパンフを基に、パワーポイントを活用して講演。参加者からは、「国際情勢の変化を学び、地域原水協の役割がよくわかった」「苦労してとりくんだ署名が国際的にはとても大きな役割を果たしていることが実感できた」などの声が寄せられました。富山県原水協事務局長の小林さんは、3･1ビキニデーの参加がいつも5～6名のため、10人目標で頑張りたいと語っています。

●民青同盟主催の学習会に15人が参加－茨城

民青同盟茨城県委員会が1月22日に学習会を開き、15人が参加しました。県原水協の岩清水さんが3・1ビキニデーパンフを使い、ことしの3・1ビキニデー意義と署名のとりくみの重要性を、加藤会長が原発問題について、それぞれ講師を務めました。茨城県原水協では若い人に行ってほしいと40歳未満の代表には補助金を出すことにしてします（ＦＡＸニュース№55で紹介済)。

●団体ごとの目標を決め推進－栃木

栃木では、機関会議でビキニデーの意義を議論し、団体ごとの目標を一覧表にしてみると30人を超えました。「栃木としてかつてないとりくみ」(福田事務局長の弁）に。加盟団体には、①機関会議で議題にしよう、②パンフを広げよう、③パンフを使った学習会―の3つを提起したところ、「過去2人が最高だった民医連から3人出そう」という具体的な変化も生まれています。放射線被害への不安もありますが、事務局に新しい人が入り、活性化してきています。事務局長は「運動する新しい人を作るためにパンフを活用し、少しずつでも新陳代謝を図っていきたい」と意欲を語っています。

2012年3・1ビキニデーパンフレットが昨年普及数を突破！

ことしの3・1ビキニデーパンフレットは、全国各地で積極的に活用され、すでに1万4900冊を超え、昨年実績1万4275冊を突破しました。
3･1ビキニデーに向けた学習会に好評です。是非、ご活用ください。　＜定価200円＞